

論文題名：歯科衛生士学生に対する歯科訪問診療同行実習の意識調査及びその有効性と評価方法の検討

所属領域名：口腔保健学領域

氏名：安藤 美穂

内容要旨

現在、我が国は、団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年を目途に、地域包括ケアシステムの構築を目指している。地域包括ケアシステムでは、歯科訪問診療の需要が高まり、多くの歯科衛生士が歯科訪問診療に関わることが予想される。そこで、朝日大学歯科衛生士専門学校では、2015 年度より、臨床実習の一環として、朝日大学 PDI 岐阜歯科診療所で行われている歯科訪問診療に歯科衛生士学生が同行している。これは、地域の介護施設や居宅で行う歯科訪問診療に、学生が同行し、歯科衛生士に必要な知識と態度を学ぶことを目的としている。今回の調査では、歯科訪問診療同行実習に対するアンケート調査を行い、実習前後の歯科訪問診療に対する学生の意識を比較検討した。また、歯科訪問診療同行実習の指導教員の学生評価についても分析を加えた。

研究対象者は、2018 年度の朝日大学の歯科訪問診療同行実習に参加した 38 名の学生とした。対象者は、同行実習の前後に、「歯科訪問診療に興味・関心がありますか」、「歯科訪問診療は重要だと思いますか」、「訪問同行実習について負担感がありますか」等の質問に 5 段階評価（1：ない、2：あまりない、3：少しある、4：ある、5：とてもある）で回答した。1 つの質問項目毎に平均スコアを求め、実習前後のスコアを比較した。また、指導教員が、同行実習中の学生の行動を観察し、行動目標の達成度をルーブリック評価で数値化した。

「歯科訪問診療に興味・関心がありますか」の質問に対する学生回答の平均スコアは、実習前で 3.7、実習後で 4.0 であり、実習前よりも実習後で有意に高い値を示した ($p<0.01$)。

「歯科訪問診療は重要だと思いますか」に対する学生回答の平均スコアは、実習前で 4.6、実習後で 4.8 となり、実習前後で有意差はなかった。さらに、「訪問同行実習について負担感がありますか」に対する学生回答の平均スコアは、実習前で 3.6、実習後で 3.7 の値を示し、実習前後で有意差を認めなかった。また、指導教員のルーブリック評価は、すべての行動目標で、学生の達成度の平均は 70 点を超えていた。

以上の結果より、歯科訪問診療同行実習で、学生の歯科訪問診療に対する興味・関心が高まることが分かった。一方、歯科訪問診療の重要度や負担感は、同行実習前後で大きな変化はなかった。また、指導教員による学生評価からは、歯科訪問同行実習の行動目標を概ね達成できたことが明らかとなった。(983 字/1200 字)

朝日大学倫理審査委員会承認済み：第 30013 号